

《芽ばえ賞》

「丈えあいの心」

有田市立保田小学校 5年

佐々木 泰誠 さん

ぼくの家の近くに住んでいる一人暮らしのおばあちゃんは、何年前に単車で事故をおこしました。その時に足のほねを折ってからは、あぶないからといって、単車に乗るのをやめたそうです。それからはバスを乗りついで、買い物に行っているそうです。そうすると、時間もかかるし、歩いてバスをのりかえたりするから、とてもつかれるそうです。

だから時々、ぼくのお母さんが近所のおばあちゃんを車にのせていっしょに買い物に行きます。そんな時、ぼくはいつも近所のおばあちゃんの家に行って、

「今日はお母さんの時間があるから、いっしょに買い物に行く？」

と聞きに行きます。すると、おばあちゃんはいつとも、

「いっしょに行ってくれるの？ ありがとう。」

と喜んで答えてくれます。そしていっしょに買い物に行きます。

ぼくはそんなお母さんとおばあちゃんのすがたを見て、何だかうれしい気持ちになります。なぜかというとお母さんが近所のおばあちゃんに親切な事をして、おばあちゃんも喜んで笑顔になってくれるからです。お母さんも、おばあちゃんに感しやしてもらって笑顔になります。以前、ぼくはお母さんに

「どうして近所のおばあちゃんを買い物につれて行くん？」

と聞いた事があります。その時、お母さんは

「泰誠が小さいころ、おかしをくれたり、泰誠のお世わしてくれたからそれに、大阪に住んでいる泰誠のおばあちゃんも一人暮らしやから、近所の人たちに助けてもらいなから、買い物に行ったりして、生活しているんやで。」

と言いました。

大阪に住んでいるぼくのおばあちゃんは、一人暮らしです。おじいちゃんを交通事故でとつぜん亡くしてから、さみしい毎日をすごしていると思います。でも、なかなか会いに行けないので、時々、電話をしたりメールをしたりします。その時に、近所の人たちが買い物の手助けをしてくれたり、お茶をしておばあちゃんの家に来てくれたりしていると感じました。そのおかげでおばあちゃんはあまりさみしくないようです。ぼくのお母さんはいそがしくて、なかなか大阪まで行けないから、ぼくのおばあちゃんが近所の人に手助けをしてもらってる分、近くの困っている人の手助けをしているそうです。

近所のおばあちゃんにそこまでやさしくできるなんて、お母さんはすごいなと思います。ぼくは、まだめん許が無いから運転しておばあちゃんをどこかへ連れて行くことはできないけれど、重たい荷物を運んだり、道で会ったら、声をかけたりして、困っている人の手助けをしたりしようと思います。